

河川における高潮対策整備方針検討委員会（第3回） 議事要旨

日時：令和6年12月23日（月） 10:00～12:00

主な意見は以下のとおり。

- 各河川の優先度の考え方について、気候変動に関する予測の不確実性を考慮し、仮に海面上昇量の予測が上方修正された場合に、各河川の優先度が大きく変わらないかを検証すると良い。
- 計画策定後において、気候変動に関する予測の変化等に柔軟に対応しながら、適宜計画の見直しを行うとよい。
- 海外では4℃上昇シナリオに対して検討している事例もある。ハード整備で4℃上昇に対応ということではないが、気温上昇が4℃となった場合の都の低地河川における影響等については把握しておく必要がある。
- スーパー堤防整備において、内部空間の活用により事業者側のデメリットを解消することは、事業を進める上で非常に良い。
- 水門ゲートの天端高や耐水対策の必要高について、今回の考え方はこれでよいが、将来的には気候変動と地震動による沈下量をそれぞれ見込むといった、中長期的な議論は続けていくべきである。
- 気候変動に関する予測として、気温上昇は様々な予測のシナリオがあり、2050年まではいずれのシナリオにおいても概ね2℃程度の上昇が予測され信頼できる値だが、2100年においてはシナリオによりばらつきがある。本方針について、2100年時点における目標は2℃上昇が前提であることは明記すべきである。

以上